

野村PIMCO・トレンド戦略ファンド Aコース(米ドル売り円買い) / Bコース(為替ヘッジなし)

野村PIMCO・トレンド戦略ファンド Aコース / 野村PIMCO・トレンド戦略ファンド Bコース

追加型投信 / 内外 / 資産複合 / 特殊型 (絶対収益追求型)

交付運用報告書

第2期(決算日2023年11月15日)

作成対象期間(2023年5月16日~2023年11月15日)

<Aコース>

第2期末(2023年11月15日)	
基準価額	8,870円
純資産総額	2,418百万円
第2期	
騰落率	△ 6.7%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

<Bコース>

第2期末(2023年11月15日)	
基準価額	10,250円
純資産総額	6,048百万円
第2期	
騰落率	6.8%
分配金(税込み)合計	10円

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、PIMCOバミューダ・トラストIV - PIMCOバミューダ・トレンド・マネジド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド(円ヘッジ) - リテールクラス / (円ヘッジなし) - リテールクラス受益証券および野村マネーマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(新興国を含みます。)の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を実質的な主要取引対象とし、世界各国(新興国を含みます。)の債券等を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時~午後5時



ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

<Aコース>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2023年5月16日～2023年11月15日)



期 首：9,509円

期 末：8,870円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 6.7% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2023年5月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

実質的に投資している世界各国(新興国を含みます。)の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等からのキャピタルゲイン(またはロス)(価格変動損益)

為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)またはプレミアム(金利差相当分の収益)

1万口当たりの費用明細

(2023年5月16日～2023年11月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 48	% 0.509	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
(a) (a) (投信会社)	(13)	(0.138)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(a) (a) (販売会社)	(34)	(0.359)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(a) (a) (受託会社)	(1)	(0.011)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) その他費用	0	0.002	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(b) (b) (監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	48	0.511	
期中の平均基準価額は、9,426円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

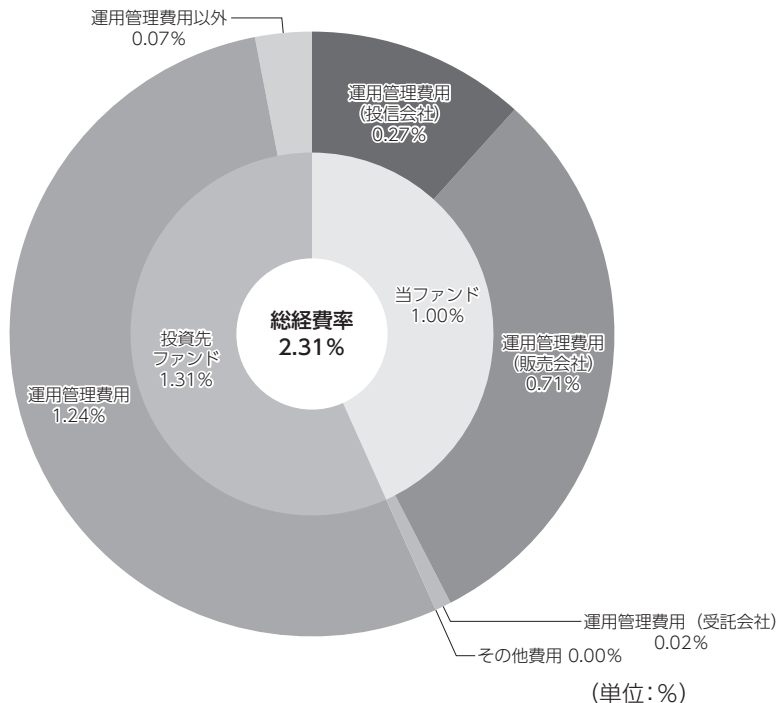
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.31%です。



総経費率(①+②+③)	2.31
①当ファンドの費用の比率	1.00
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.24
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07

- (注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
(注) 当ファンドの費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
(注) 投資先ファンドの費用は、投資先ファンドの開示基準に基づき算出したものです。
(注) 各比率は、年率換算した値です。
(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券等（マザーファンドを除く。）です。
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
(注) 当ファンドのその他費用には、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。
(注) 投資先ファンドの純資産総額等によっては、投資先ファンドの運用管理費用以外の比率が高まる場合があります。
(注) 投資先ファンドの費用は、交付運用報告書作成時点において、委託会社が知りうる情報をもとに作成しています。
(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年11月15日～2023年11月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2022年12月14日です。

	2022年12月14日 設定日	2023年11月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	8,870
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 11.3
純資産総額 (百万円)	477	2,418

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2023年11月15日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

投資環境

(2023年5月16日～2023年11月15日)

【世界株式市場】

期初から2023年7月にかけては、5月の米雇用統計において雇用者数は市場予想を上回ったものの失業率は上昇し、平均時給の伸びも鈍化したことや、6月の米CPI（消費者物価指数）上昇率が市場予想を下回ったことなどを背景に、FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げが停止されることが期待されたことなどから投資家心理が上向き、株式市場は概ね上昇基調で推移しました。その後は、9月から10月にかけて、9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）において政策金利の据え置きが決定されたものの、高い金利水準の維持が示唆され、長期金利が上昇する中で下落しました。11月に入り、FOMCにおいて政策金利が維持されたことや、経済指標に弱さが見られたことを受け、世界的な利上げ終了への見方が広がり上昇基調で推移しました。

【世界債券市場】

期初から2023年5月末にかけては、FRB高官が利上げ停止に慎重な姿勢を示したことなどを背景に、下落基調で推移しました。7月下旬から9月半ばにかけては、米景気の堅調さを示す経済指標が発表されたことやインフレ圧力の根強さが意識される中、FRBによる金融引き締め長期化観測が市場で広がり下落基調で推移しました。9月下旬から10月にかけては、9月のFOMCにおいて2024年の政策金利見通しが引き上げられたことなどを背景に、長期金利が上昇する中下落基調で推移しました。11月に入り、FOMCにおいて政策金利が維持されたことや、経済指標に弱さが見られたことを受け、世界的な利上げ終了への見方が広がり上昇基調で推移しました。

【為替市場】

期初から2023年6月にかけては、5月の米雇用統計において雇用者数の伸びが市場予想を上回ったことや、FRB議長が議会証言において今後の追加利上げの可能性を示唆したことなどを背景に円安・ドル高が進みました。7月に入り、6月の米雇用統計における非農業部門雇用者数の伸びや6月の米CPIやPPI（生産者物価指数）の上昇率が市場予想を下回ったことを受け、円高・ドル安が進む局面もありました。その後は、日米金利差が意識され円安・ドル高が進む中、9月のFOMCにおいて政策金利の据え置きが決定されたものの、高い金利水準の維持が示唆され、長期金利が上昇したことなどを背景に、円安・ドル高基調で推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2023年5月16日～2023年11月15日)

[野村PIMCO・トレンド戦略ファンド Aコース]

[PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジ）-リテールクラス] 受益証券および [野村マネー マザーファンド] 受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする [PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジ）-リテールクラス] 受益証券への投資比率を概ね90%以上に維持しました。

[PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジ）-リテールクラス]

世界各国（新興国を含みます。）の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を主要取引対象とし、定量モデルを用いたトレーディング戦略の活用によって絶対収益^{*}の獲得を目指して運用を行ないました。

※絶対収益とは、特定の市場等の動きに対する超過収益ではなく、投資元本に対しての収益を意味します。また「絶対に収益が得られる」という意味ではありません。

当作成期におけるファンドの騰落率はマイナスとなりました。共通ポートフォリオにおいて、資産別でファンドに対するマイナスの影響が大きかったのは、商品、株式などとなりました。個別の寄与度では、欧州石炭や欧州排出権のポジションなどが下位となりました。

[野村マネー マザーファンド]

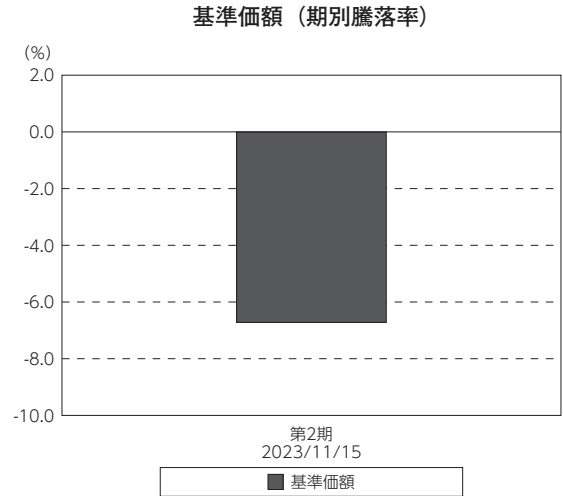
残存1年以内の公社債等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図りました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2023年5月16日～2023年11月15日)

当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

(2023年5月16日～2023年11月15日)

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、決定しました。

留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項目	第2期	
	2023年5月16日～2023年11月15日	
当期分配金	-	
(対基準価額比率)	-%	
当期の収益	-	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	131	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

[野村PIMCO・トレンド戦略ファンド Aコース]

[PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジ）-リテールクラス] 受益証券および [野村マネー マザーファンド] 受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする [PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジ）-リテールクラス] 受益証券への投資比率を概ね90%以上に維持します。

[PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジ）-リテールクラス]

世界各国（新興国を含みます。）の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を主要取引対象とし、定量モデルを用いたトレーディング戦略の活用によって絶対収益^{*}の獲得を目指します。

※絶対収益とは、特定の市場等の動きに対する超過収益ではなく、投資元本に対しての収益を意味します。また「絶対に収益が得られる」という意味ではありません。

また、原則として純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行いません。

[野村マネー マザーファンド]

残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図って運用いたします。

日銀によるマイナス金利政策のもと、主要な投資対象となる公社債の利回りや余資運用の際のコール・ローンの金利もマイナスとなる中、マイナス利回りの資産への投資等を通じて、基準価額が下落することが想定されますのでご注意ください。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願いいたします。

お知らせ

該当事項はございません。

当ファンドの概要

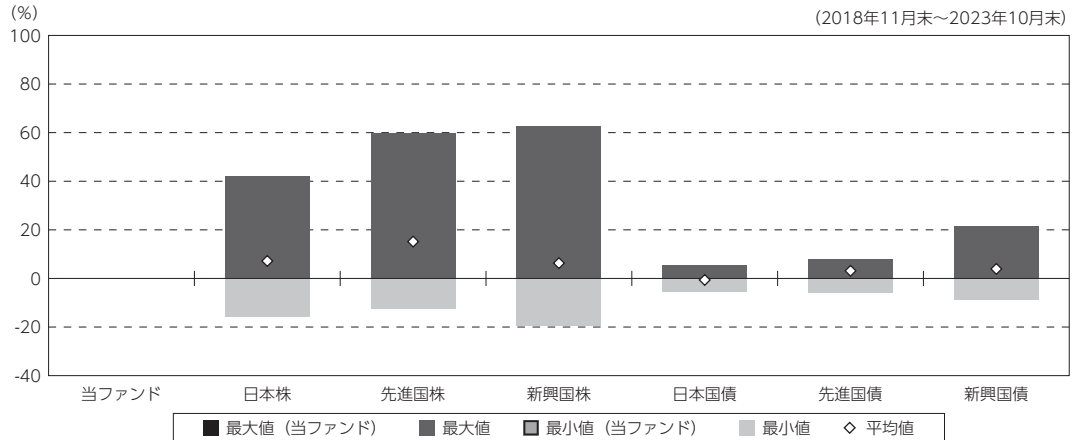
商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	2022年12月14日から2032年11月15日までです。	
運用方針	円建ての外国投資信託であるPIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジ）-リテールクラス受益証券および円建ての国内籍の投資信託である野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。各受益証券への投資比率は、通常の状況においては、PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジ）-リテールクラス受益証券への投資を中心としますが、各受益証券への投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。投資する円建ての外国投資信託において、米ドル売り円買いの為替取引を行ない、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。	
主要投資対象	野村PIMCO・トレンド戦略ファンド Aコース	PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジ）-リテールクラス受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジ）-リテールクラス	世界各国（新興国を含みます。）の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を主要取引対象とし、世界各国（新興国を含みます。）の債券等を主要投資対象とします。
	野村マネー マザーファンド	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。
運用方法	PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジ）-リテールクラス受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（新興国を含みます。）の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を実質的な主要取引対象とし、世界各国（新興国を含みます。）の債券等を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、原則として基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行なわれており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響を受け、当該金融取引を行なうための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	—	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	—	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	—	7.2	15.2	6.3	△ 0.6	3.1	3.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年11月から2023年10月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドの騰落率につきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

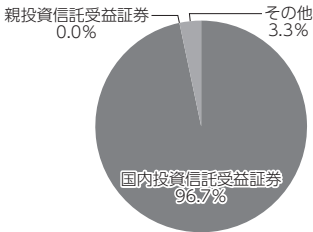
組入資産の内容

(2023年11月15日現在)

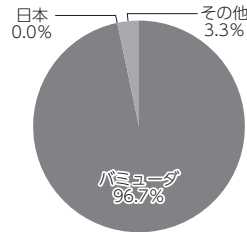
○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
	%
PIMCOバミューダ・トラストIV-PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド- (円ヘッジ)・リテールクラス	96.7
野村マネー マザーファンド	0.0
組入銘柄数	2銘柄

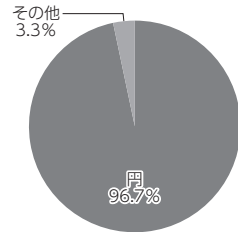
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



- (注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

純資産等

項目	第2期末
	2023年11月15日
純資産総額	2,418,820,772円
受益権総口数	2,726,881,883口
1万口当たり基準価額	8,870円

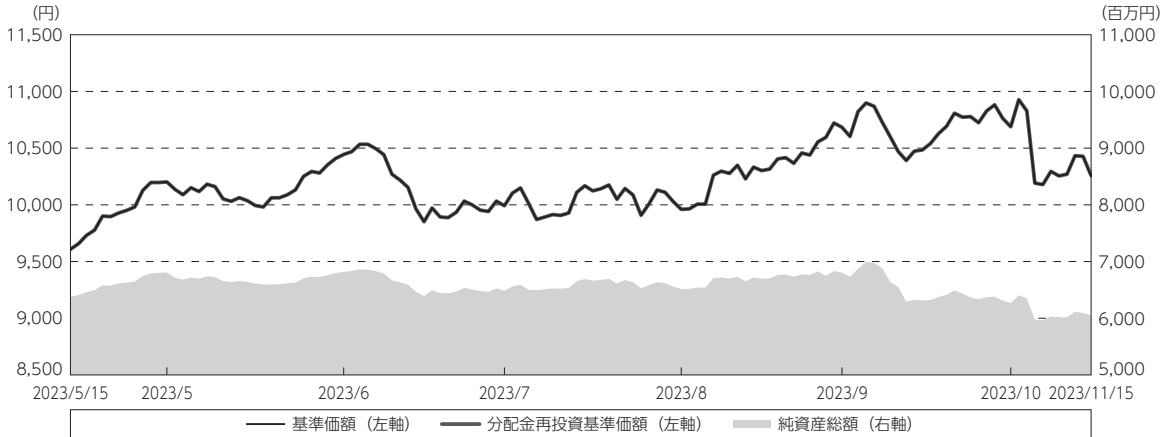
(注) 期中における追加設定元本額は65,050,801円、同解約元本額は612,054,476円です。

<Bコース>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2023年5月16日～2023年11月15日)



期 首：9,608円

期 末：10,250円 (既払分配金(税込み)：10円)

騰落率： 6.8% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2023年5月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

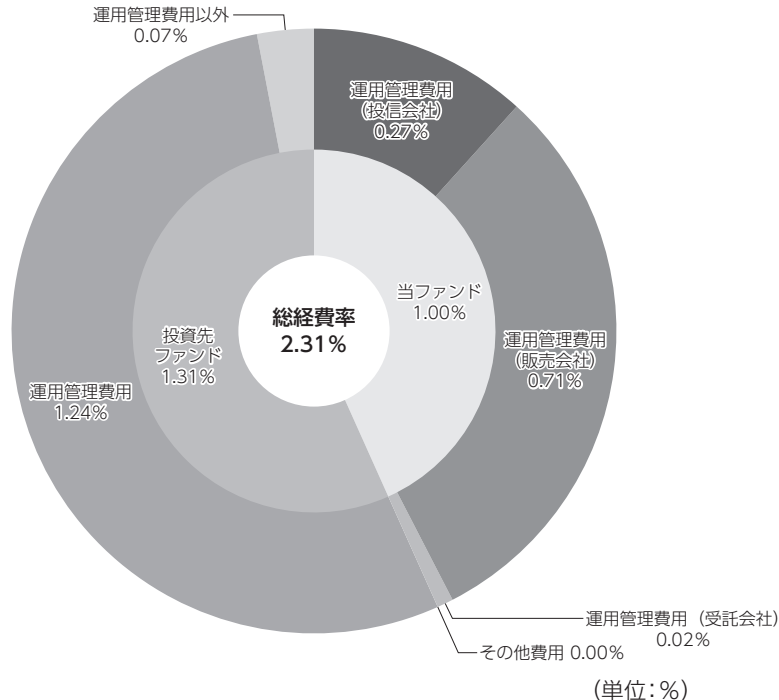
○基準価額の主な変動要因

実質的に投資している世界各国(新興国を含みます)の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等からのキャピタルゲイン(またはロス)(価格変動損益)
円/米ドルの為替変動

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.31%です。



総経費率(①+②+③)	2.31
①当ファンドの費用の比率	1.00
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.24
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07

- (注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
 (注) 当ファンドの費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
 (注) 投資先ファンドの費用は、投資先ファンドの開示基準に基づき算出したものです。
 (注) 各比率は、年率換算した値です。
 (注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券等（マザーファンドを除く。）です。
 (注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
 (注) 当ファンドのその他費用には、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。
 (注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。
 (注) 投資先ファンドの純資産総額等によっては、投資先ファンドの運用管理費用以外の比率が高まる場合があります。
 (注) 投資先ファンドの費用は、交付運用報告書作成時点において、委託会社が知りうる情報をもとに作成しています。
 (注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年11月15日～2023年11月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2022年12月14日です。

	2022年12月14日 設定日	2023年11月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,250
期間分配金合計(税込み) (円)	—	10
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.6
純資産総額 (百万円)	2,258	6,048

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2023年11月15日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

投資環境

(2023年5月16日～2023年11月15日)

【世界株式市場】

期初から2023年7月にかけては、5月の米雇用統計において雇用者数は市場予想を上回ったものの失業率は上昇し、平均時給の伸びも鈍化したことや、6月の米CPI（消費者物価指数）上昇率が市場予想を下回ったことなどを背景に、FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げが停止されることが期待されたことなどから投資家心理が上向き、株式市場は概ね上昇基調で推移しました。その後は、9月から10月にかけて、9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）において政策金利の据え置きが決定されたものの、高い金利水準の維持が示唆され、長期金利が上昇する中で下落しました。11月に入り、FOMCにおいて政策金利が維持されたことや、経済指標に弱さが見られたことを受け、世界的な利上げ終了への見方が広がり上昇基調で推移しました。

【世界債券市場】

期初から2023年5月末にかけては、FRB高官が利上げ停止に慎重な姿勢を示したことなどを背景に、下落基調で推移しました。7月下旬から9月半ばにかけては、米景気の堅調さを示す経済指標が発表されたことやインフレ圧力の根強さが意識される中、FRBによる金融引き締め長期化観測が市場で広がり下落基調で推移しました。9月下旬から10月にかけては、9月のFOMCにおいて2024年の政策金利見通しが引き上げられたことなどを背景に、長期金利が上昇する中下落基調で推移しました。11月に入り、FOMCにおいて政策金利が維持されたことや、経済指標に弱さが見られたことを受け、世界的な利上げ終了への見方が広がり上昇基調で推移しました。

【為替市場】

期初から2023年6月にかけては、5月の米雇用統計において雇用者数の伸びが市場予想を上回ったことや、FRB議長が議会証言において今後の追加利上げの可能性を示唆したことなどを背景に円安・ドル高が進みました。7月に入り、6月の米雇用統計における非農業部門雇用者数の伸びや6月の米CPIやPPI（生産者物価指数）の上昇率が市場予想を下回ったことを受け、円高・ドル安が進む局面もありました。その後は、日米金利差が意識され円安・ドル高が進む中、9月のFOMCにおいて政策金利の据え置きが決定されたものの、高い金利水準の維持が示唆され、長期金利が上昇したことなどを背景に、円安・ドル高基調で推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2023年5月16日～2023年11月15日)

[野村PIMCO・トレンド戦略ファンド Bコース]

[PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジなし）-リテールクラス] 受益証券および [野村マネー マザーファンド] 受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする [PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジなし）-リテールクラス] 受益証券への投資比率を概ね90%以上に維持しました。

[PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジなし）-リテールクラス]

世界各国（新興国を含みます。）の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を主要取引対象とし、定量モデルを用いたトレーディング戦略の活用によって絶対収益^{*}の獲得を目指して運用を行ないました。

※絶対収益とは、特定の市場等の動きに対する超過収益ではなく、投資元本に対しての収益を意味します。また「絶対に収益が得られる」という意味ではありません。

当作成期におけるファンドの騰落率はマイナスとなりました。共通ポートフォリオにおいて、資産別でファンドに対するマイナスの影響が大きかったのは、商品、株式などとなりました。個別の寄与度では、欧州石炭や欧州排出権のポジションなどが下位となりました。

[野村マネー マザーファンド]

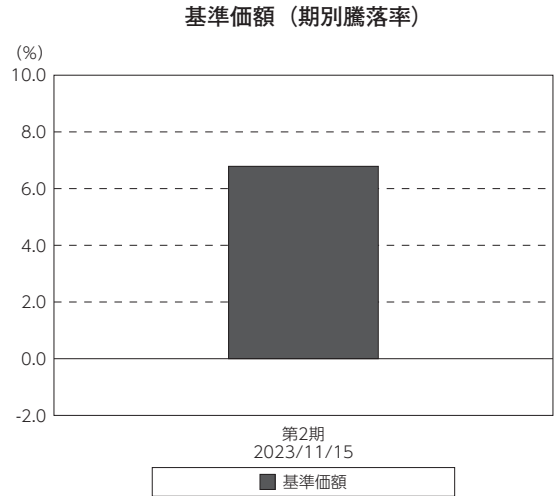
残存1年以内の公社債等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図りました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2023年5月16日～2023年11月15日)

当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

(2023年5月16日～2023年11月15日)

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、決定しました。

留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万円当たり・税込み)

項目	第2期	
	2023年5月16日～2023年11月15日	
当期分配金	10	
(対基準価額比率)	0.097%	
当期の収益	10	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	355	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

【野村PIMCO・トレンド戦略ファンド Bコース】

[PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジなし）-リテールクラス] 受益証券および【野村マネー マザーファンド】 受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする [PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジなし）-リテールクラス] 受益証券への投資比率を概ね90%以上に維持します。

【PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー（円ヘッジなし）-リテールクラス】

世界各国（新興国を含みます。）の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を主要取引対象とし、定量モデルを用いたトレーディング戦略の活用によって絶対収益^{*}の獲得を目指します。

※絶対収益とは、特定の市場等の動きに対する超過収益ではなく、投資元本に対しての収益を意味します。また「絶対に収益が得られる」という意味ではありません。

また、組入資産について、原則として対円で為替ヘッジを行いません。

【野村マネー マザーファンド】

残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図って運用いたします。

日銀によるマイナス金利政策のもと、主要な投資対象となる公社債の利回りや余資運用の際のコール・ローンの金利もマイナスとなる中、マイナス利回りの資産への投資等を通じて、基準価額が下落することが想定されますのでご注意ください。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願いたします。

お知らせ

該当事項はございません。

当ファンドの概要

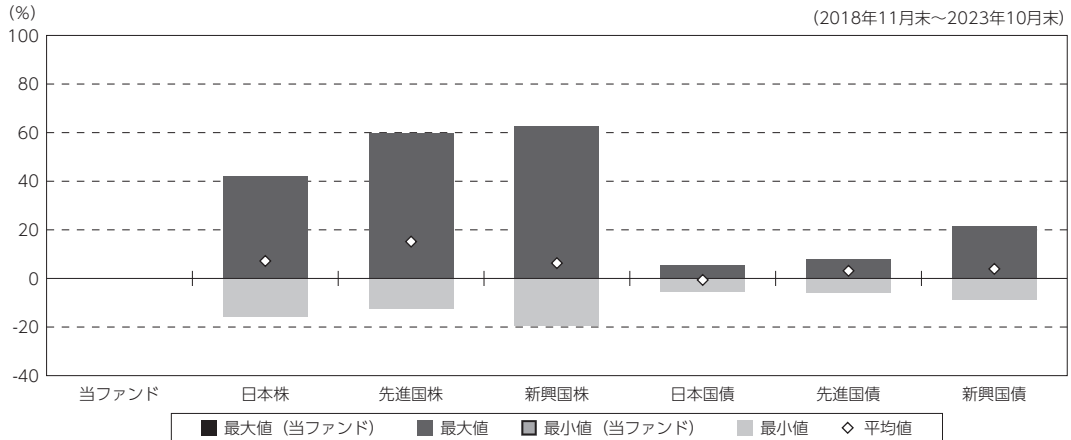
商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	2022年12月14日から2032年11月15日までです。	
運用方針	円建ての外国投資信託であるPIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジなし）-リテールクラス受益証券および円建ての国内籍の投資信託である野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。各受益証券への投資比率は、通常の状況においては、PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジなし）-リテールクラス受益証券への投資を中心としますが、各受益証券への投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。投資する円建ての外国投資信託において、原則として対円で為替ヘッジを行ないません。	
主要投資対象	野村PIMCO・トレンド戦略ファンド Bコース	PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジなし）-リテールクラス受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、コモディティ・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジなし）-リテールクラス	世界各国（新興国を含みます。）の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を主要取引対象とし、世界各国（新興国を含みます。）の債券等を主要投資対象とします。
	野村マネー マザーファンド	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。
運用方法	PIMCOバミューダ・トラストⅣ－PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド（円ヘッジなし）-リテールクラス受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（新興国を含みます。）の株式、債券、金利、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を実質的な主要取引対象とし、世界各国（新興国を含みます。）の債券等を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、原則として基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行なわれており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響を受け、当該金融取引を行なうための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	-	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	-	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	-	7.2	15.2	6.3	△ 0.6	3.1	3.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年11月から2023年10月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドの騰落率につきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

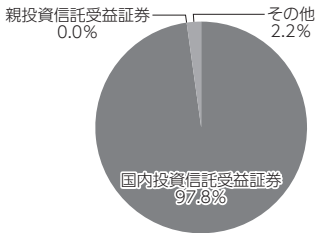
組入資産の内容

(2023年11月15日現在)

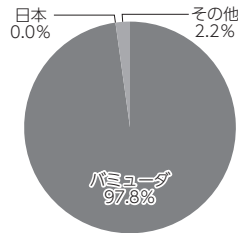
○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
	%
PIMCOバミューダ・トラストⅣ-PIMCOバミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド- (円ヘッジなし) -リテールクラス	97.8
野村マネー マザーファンド	0.0
組入銘柄数	2銘柄

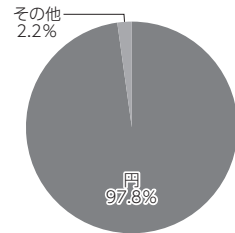
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

純資産等

項目	第2期末
	2023年11月15日
純資産総額	6,048,898,803円
受益権総口数	5,901,413,056口
1万口当たり基準価額	10,250円

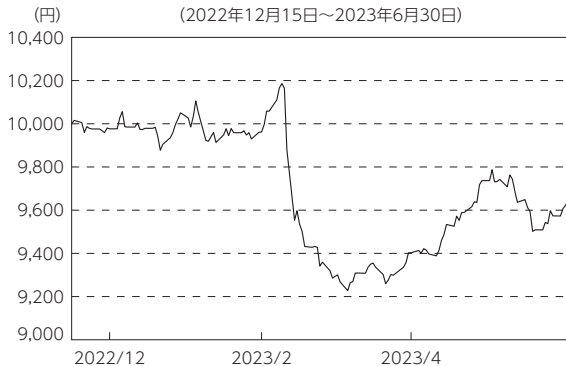
(注) 期中における追加設定元本額は365,518,239円、同解約元本額は1,100,368,615円です。

組入上位ファンドの概要

PIMCOパミューダ・トラストⅣ-PIMCOパミューダ・トレンド・マネジド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンド- (円ヘッジ) -リテールクラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】



(注) 分配金を分配時に再投資したもものとして計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年12月15日～2023年6月30日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2023年6月30日現在)

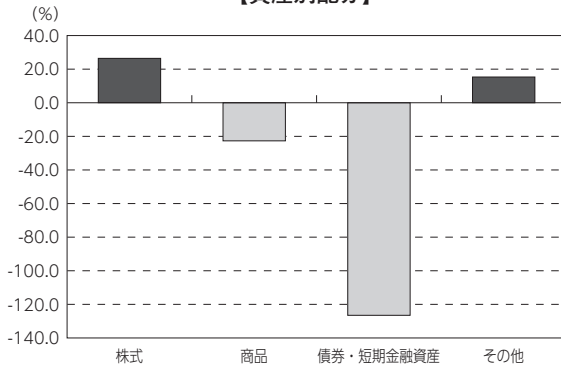
	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1	CDX ITRAXX MAIN39 5Y ICE	クレジットデフォルトスワップ	ユーロ	ユーロ圏	21.9%
2	IRS CNY 3.00000 03/15/23-5Y LCH	金利スワップ	中国元	中国	17.2
3	RFR JPY MUTK/0.85000 09/20/23-10Y LCH	金利スワップ	日本円	日本	15.7
4	CDX IG40 5Y ICE	クレジットデフォルトスワップ	米ドル	アメリカ	14.4
5	CDX EM39 ICE	クレジットデフォルトスワップ	米ドル	新興国	14.3
6	IRS CLP 5.83000 04/25/23-5Y CME	金利スワップ	チリペソ	チリ	8.1
7	IRS EUR 3.00000 09/20/23-10Y LCH	金利スワップ	ユーロ	ユーロ圏	7.2
8	OIS INR MIB0R/6.50000 03/15/23-5Y LCH	金利スワップ	インドルピー	インド	6.2
9	IRS CLP 5.23670 06/14/23-5Y CME	金利スワップ	チリペソ	チリ	5.8
10	IRS CZK 5.07000 04/20/23-5Y CME	金利スワップ	チェココルナ	チェコ	5.8
組入銘柄数			359銘柄		

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

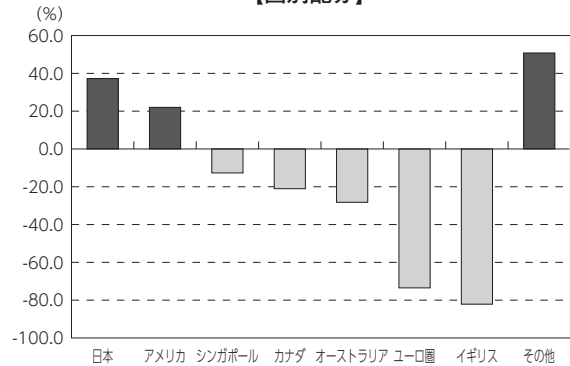
(注) ロング（買い持ち）ポジションの組入上位銘柄を表示しています。

(注) 国（地域）別配分は、原則として発行国（地域）を表示しております。

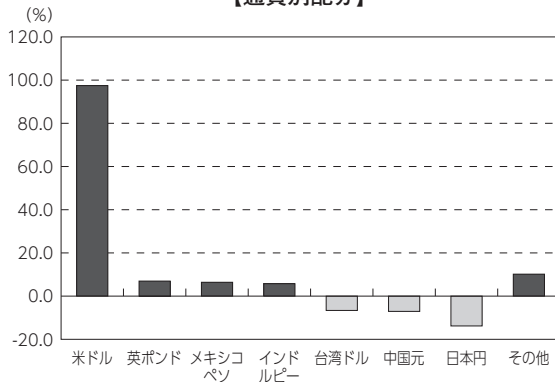
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 資産別配分・国（地域）別配分には先物等のデリバティブが含まれます。通貨別配分には為替フォワード等のデリバティブが含まれます。

(注) 国（地域）別配分は、原則として発行国（地域）を表示しております。

(注) 通貨別配分は、純資産総額に対する為替エクスポージャー（ネット）の割合です。

(注) 国（地域）別配分・通貨別配分は、ネットベースで絶対値で降順にしたものうち、数値の大きいものを表示しています。

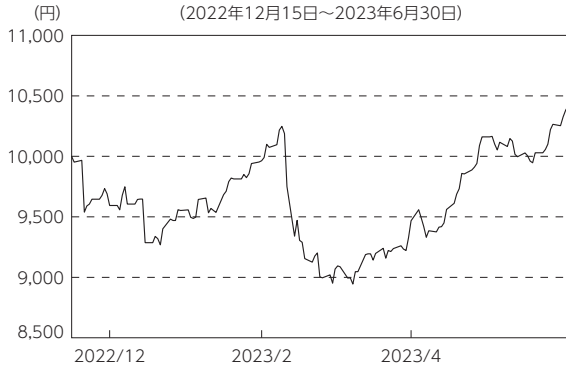
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

PIMCOパミューダ・トラストⅣーPIMCOパミューダ・トレンド・マネージド・フューチャーズ・ストラテジー・ファンドー (円ヘッジなし) -リテールクラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】



(注) 分配金を分配時に再投資したもものとして計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年12月15日～2023年6月30日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2023年6月30日現在)

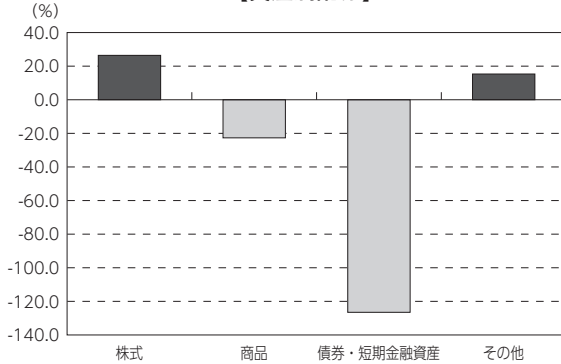
	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1	CDX ITRAXX MAIN39 5Y ICE	クレジットデフォルトスワップ	ユーロ	ユーロ圏	21.9%
2	IRS CNY 3.00000 03/15/23-5Y LCH	金利スワップ	中国元	中国	17.2
3	RFR JPY MUTK/0.85000 09/20/23-10Y LCH	金利スワップ	日本円	日本	15.7
4	CDX IG40 5Y ICE	クレジットデフォルトスワップ	米ドル	アメリカ	14.4
5	CDX EM39 ICE	クレジットデフォルトスワップ	米ドル	新興国	14.3
6	IRS CLP 5.83000 04/25/23-5Y CME	金利スワップ	チリペソ	チリ	8.1
7	IRS EUR 3.00000 09/20/23-10Y LCH	金利スワップ	ユーロ	ユーロ圏	7.2
8	OIS INR MIB0R/6.50000 03/15/23-5Y LCH	金利スワップ	インドルピー	インド	6.2
9	IRS CLP 5.23670 06/14/23-5Y CME	金利スワップ	チリペソ	チリ	5.8
10	IRS CZK 5.07000 04/20/23-5Y CME	金利スワップ	チェココルナ	チェコ	5.8
組入銘柄数			359銘柄		

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

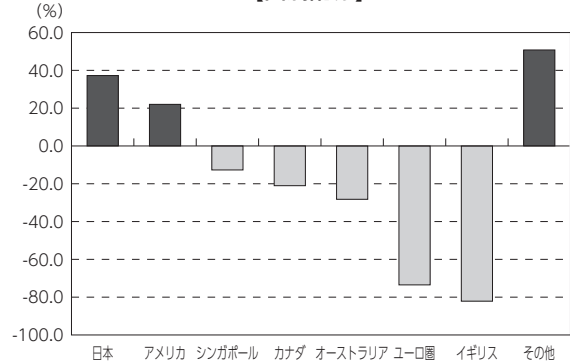
(注) ロング（買い持ち）ポジションの組入上位銘柄を表示しています。

(注) 国（地域）別配分は、原則として発行国（地域）を表示しております。

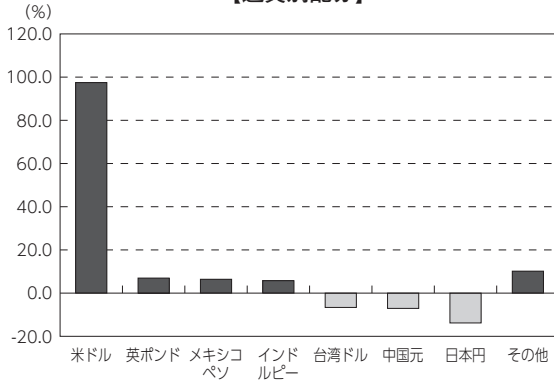
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 資産別配分・国（地域）別配分には先物等のデリバティブが含まれます。通貨別配分には為替フォワード等のデリバティブが含まれます。

(注) 国（地域）別配分は、原則として発行国（地域）を表示しております。

(注) 通貨別配分は、純資産総額に対する為替エクスポージャー（ネット）の割合です。

(注) 国（地域）別配分・通貨別配分は、ネットベースで絶対値で降順にしたものうち、数値の大きいものを表示しています。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

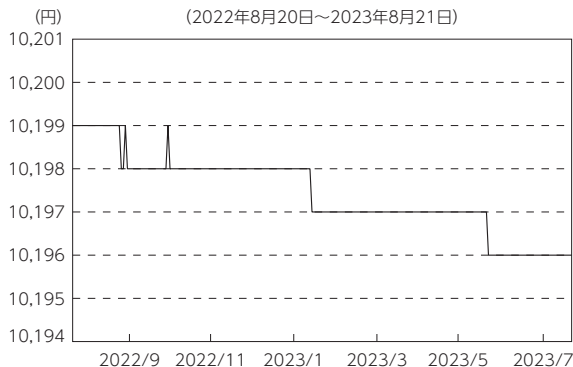
(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

野村マネー マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】

(2022年8月20日～2023年8月21日)



【1万口当たりの費用明細】

(2022年8月20日～2023年8月21日)

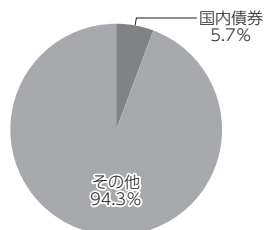
該当事項はございません。

【組入上位 10 銘柄】

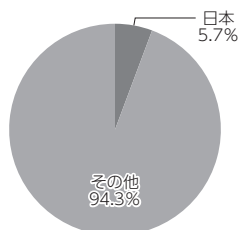
(2023年8月21日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1	三井住友ファイナンス&リース 第21回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	1.5
2	大阪府 公募(5年)第155回	地方債	円	日本	1.5
3	京都府 公募平成25年度第7回	地方債	円	日本	1.3
4	日本高速道路保有・債務返済機構債券 政府保証債第200回	特殊債	円	日本	0.5
5	福岡県 公募平成25年度第4回	地方債	円	日本	0.3
6	地方公共団体金融機構債券 第54回	特殊債	円	日本	0.1
7	愛知県 公募平成25年度第15回	地方債	円	日本	0.1
8	東京都 公募第724回	地方債	円	日本	0.1
9	西日本高速道路 第47回	特殊債	円	日本	0.1
10	-	-	-	-	-
組入銘柄数			9銘柄		

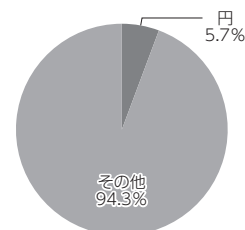
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) の指数値及び東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社 (以下「J P X」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。

○MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行なわれる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)」(ここでは「指数」とよびます) についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスは法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社 (以下、JPM) がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。米国の J.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSLLC」と呼びます) (「指数スポンサー」) は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行なう際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)